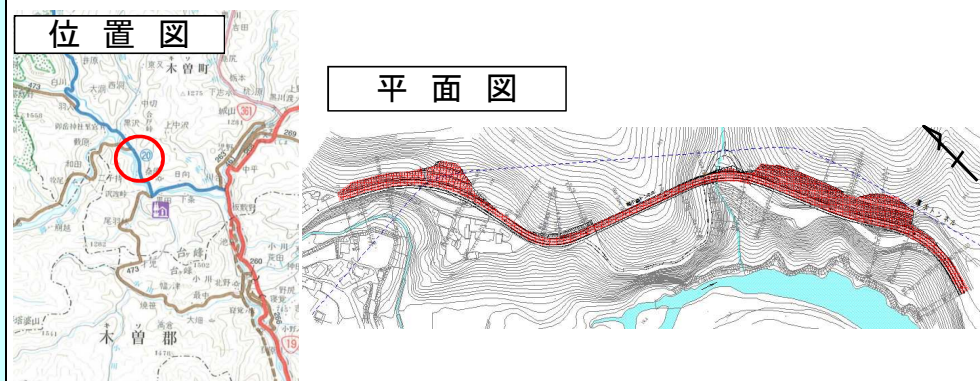


(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		道路改築事業		路河川名等	(主)開田三岳福島線				
事業毎の通番		13	市町村名	木曾町	箇所名(ふりがな)	小島トンネル(こじまトンネル)			
事業概要	事業目的	本路線は木曾町福島と三岳間を連絡するほか、開田高原、王滝村へも連絡する、木曾郡中西部における重要な広域幹線道路です。 小島トンネルは昭和32年施工で、幅員狭小及び平面線形が不良で特に大型車通行に支障があります。当該区間の整備により大型車の交互通行や冬期の円滑かつ安全な交通を確保します。							
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり (暮らしを支える道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法				
	関連する事業、計画等								
	保安対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:3,271台/日							
	着手年度	平成27年度	事業期間	5年間	事業費 (千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	平成32年度	費用対効果	3.9		国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容 (主な工種)	道路改築工L=780m、W=6.0(9.0)m			1,500,000	900,000		540,000	60,000
	年度事業内容 (主な工種)								
	事業効果	直接的効果 (定量的・定性的)	走行経費の減少 災害に強い道路						
		間接的効果 (定量的・定性的)	地域間交流の促進						
評価の視点	必要性	○代替道路の無し ○交通結節点アクセス:木曾福島駅への1次アクセス道路 ○医療・福祉・教育施設との連携:木曾病院との連携が発揮できる道路(1次アクセス) ○観光地アクセス:御岳高原に通じる道路						評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:木曾地域振興計画、中期総合計画 ○緊急輸送道路の路線指定:緊急輸送路(2次)に路線認定 ○地域指定:過疎地域						評価	B
	効率性	○費用便益比(B/C):1.8 ○事業期間:6年(H27~H32) ○工法等の比較検討:概略設計により検討						評価	B
	緊急性	○雪崩、落石等の危険箇所の安全を向上させる:防災点検要対策箇所 ○朝夕の局部的現象を緩和する:移動性阻害箇所(トンネル)の緩和 ○現況の幅員、半径、勾配:現況幅員5.5m						評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有:木曾町役場に周知 ○地域の取り組み:地域が協力的 ○地域の合意形成:木曾町、木曾町村議会議長会からの要望がある						評価	C
	部意見	事業の必要性が高いが、地域の合意形成など計画熟度が低いため、事業化を見送りたい。		行政改革課意見	必要性が認められる。		評価結果	総合評価	B

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(主)開田三岳福島線は木曾町福島と三岳間を連絡するほか、開田高原、王滝村へも連絡する、木曾郡中西部における重要な広域幹線道路であり、三岳地区と王滝村からは国道19号へ接続する唯一の幹線道路である。小島トンネルは昭和32年施工で、幅員狭小及び平面線形が不良で特に大型車通行に支障が出ている。		
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	木曾町からは毎年要望が上がっており、三岳地区から木曾町の中心部へ行くまでの間に大型車の通行に支障があった2箇所のトンネルの内の1つであったが、25年に一方のトンネルが完成したため、町からの要望も強い。		
③事業説明等の経緯	毎年木曾町から要望が上げられており、町に計画説明を行っている。		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	木曾地域振興計画、中期総合計画に位置づけられている。		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	地域の唯一の道路であるため、生活への影響が少なくなるような工法を検討することとしている。		
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、付近の商業施設等の活性化も期待される。		
⑦その他	コストの縮減が期待できる案を採用している。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 39' 16" 東経:E 138° 18' 14"